

Constructing a comprehensive team approach using the refined short-term reconstructing meaningful life worlds model

RSRM に基づく包括的チームアプローチの構築

大下由美 県立広島大学

本論文の目的は、社会構成主義的視点から、メタ理論、基礎理論、変容論、技法論そして効果測定論が体系化された RSRM (Refined Short-term Reconstructing Meaningful life worlds) モデルに基づく新しい包括的チームアプローチを提示することである。本論では、妄想性障害のクライアントの社会適応レベルの向上過程を用いて、多職種で構成されるチームの総合的な実践活動が、クライアントにとっての問題場面を構成する言語行為と意味構成の要素の浮上とその差異化、そして差異化された要素の実践力の強化とその実践、さらに実践を振り返ることでそれらを規則化する過程に、いかに寄与するのかを論じる。さらに、集中的な介入を行ったセラピストの質問法は類型化され、各技法選択と差異の生成力学との関連性が考察される。最後に、問題場面における最小の変容の力学の生成過程を、3次元のグラフを用いて示す、新しい効果測定法について論じる。

キーワード: 社会構成主義, 包括的チームアプローチ, RSRM (Refined Short-term Reconstructing Meaningful life worlds), 循環的質問法, 効果測定法
